日本建設機械化協会
J.C.M.A.

No. 133　　1961年3月号

目　次

最近の動向にことよせて……西松三好…1
首都高速道路の基礎工事について……長光喜一…2
名四国道の基礎工事について……神谷洋…8
奥只見ダム工事における骨材用原石の採取について…細谷浩正…13
読書第2水力発電所圧力トンネル工事の実績……東正久…17
昭和35年度建設省で採用した建設機械……坪野質次／中野俊次／後藤浩平…23
ウロウロと歩き回つた国々での話……山本房生…27
ファイマートタービンミキサの性能試験……山口敏隆／高宮信義…32
建設機械用機関の性能試験報告……ディーゼル機関性能試験委員会…36
「新技術報告」
アイソトープにより測定したコンクリート舗装の路床路盤の密度・含水比について…施工部会新技術委員会…40
「ほんやく」
アースコンパクション（M.D.モリス）……田中康之…44
リッパ工法……大蝶堅…51
川崎自走式タイヤローラ……山崎正盈…57
「委員報告」
建設機械用ディーゼル機関仕様書……ディーゼル機関技術委員会…59
「支部便り」
建設機械運転員技術講習会開催……北海道支部…62
ニュース……63
行事一覧・編集後記……（長尾・五十嵐）…64

◇表紙写真説明◇

川崎車輌株式会社製
KR 30形自走式タイヤローラ

強度の締固め効果を短時間になしうる自走式の大形高性能機で，タイヤ内圧と死荷重を加減して接地圧を大幅に変えることができるので，土，砂，アスファルトコンクリート等，あらゆる土質の転圧に使用できる。

自重は12t，最大転圧重量は28tで，100psのディーゼル機関1基を登載している。トルクコンバータ付で起動力が大きく，大形タイヤにより走行抵抗が小さい。各部の構造は簡単，強固で保守が楽であり，広く市販部品を使用しているので，万一故障しても修理が早く全体としての稼働率が高い。

概略仕様

性能	走行速度（前後進共）	第1速 0～8 km/h 第2速 0～13 km/h 第3速 0～19 km/h 第4速 0～25 km/h	要目	全長	5,670 mm
				全幅	約 2,450 mm
				全高	約 3,395 mm
				タイヤ数	前 3，後 4
	最小回転半径	8 m		タイヤ寸法	13.00-24×18 PR 平滑
	登坂能力	1/4	機関	名称	いすゞ DA 120 形ディーゼル機関
	転圧幅	2,165 mm		出力（1時間定格）	100 PS/2,200 rpm

注：本機の詳細は本誌3月号（No. 133）57頁を参照願います